

- 学力向上アクティブ・ラーニング推進事業
- 学力向上総合対策事業（全国学力・学習状況調査結果から考える）
- いきいき教育地域人材活用推進事業
- 国際バカロレア認定校に向けた取り組み／県立甲府西高等学校
- 地域を支える ものづくり教育／県立葦崎工業高等学校
- 運動部活動顧問任用事業
- 博学連携の推進／県立博物館
- 学校教育を支援する実践的な研究を目指して
- 学校紹介／南アルプス市立芦安小学校・県立巨摩高等学校
- 県立美術館 コレクション企画展「山梨県立美術館物語 40年間のストーリー&ヒストリー」
- 県立文学館「新収蔵品展 ブンガク玉手箱 太宰治・田中冬二・辻邦生・野尻抱影・山本周五郎ほか」
- 県立博物館シンボル展「よみがえる！甲府道祖神祭り」
- 県立考古博物館冬季企画展「甲斐市の出土品Ⅱ」
- 県立考古博物館「わたしたちの研究室」研究成果展示会
- 山梨近代人物館人物紹介／旧制甲府中学校が輩出した人物たち
- 山梨の文化財／木造聖観音及び諸尊像
- 全国高等学校スケート競技選手権大会・国民体育大会冬季大会スケート競技会のお知らせ
- 「かいじあむのお正月」のお知らせ
- ホームページ紹介／早川町立早川南小学校・都留市立都留第二中学校

Click!

※指定ページにジャンプします



作品タイトル「風の祭り」

山梨県立ふじざくら支援学校

高等部3年 わたなべ あきと 渡邊 晃人

指導者：あかいけ みよこ 赤池 美代子 教諭

山梨県教育委員会

# 学力向上アクティブ・ラーニング推進事業

義務教育課

## 1 概要

本県における学力向上に関する課題改善及びこれからの時代に求められる資質・能力を育成する観点から、「アクティブ・ラーニング（A L）」の視点からの学習内容や指導方法の改善を推進するとともに、新学習指導要領全面実施に向けた全県的な対応を促し、確かな学力の向上と教育課程の充実を図ることを目的としています。



平成28年度から2年間、4地区（甲府、中北、峡東、富士・東部）の小・中学校各2校の計4校を実践検証校として指定しています。

## 2 事業内容

実践検証校は、2年間で6つに分けた期間（ターム）に基づく研究計画により、A Lの具体的な授業内容や指導方法について研究・実践を行います。



各タームの中で成果や課題を考察し、P D C Aサイクルに基づく研究を行うとともに、A Lを通して不断の授業改善の具現化に向けた実践的な研究を行っています。



A Lが「主体的・対話的で深い学び」と示された新学習指導要領への円滑な移行が図られるよう、実践検証校の研究会や研究授業の様子を定期的に地域の学校に向けて発信しています。研究会は、校内研をオープン参加にした拡大研究会や、通常の授業を開放する機会等の設定を行い、地域に研究の成果を広げています。

## 3 実践検証校

甲府市立朝日小学校  
北杜市立明野小学校  
甲州市立松里中学校  
道志村立道志中学校



- ・平成28年度、4校の実践検証校において、13の授業で5教科（国語、社会、算数・数学、理科、英語）が公開されました。
- ・今年度も、各校で積極的な授業公開が行われています。
- ・児童・生徒は、友だちとともに、いきいきと意見を交わし合い、お互いに学びを深めています。同時に、授業後の研究会では、実践検証校の先生方と参観した先生方による活発な意見交換も行われています。児童・生徒の学びの活性化とともに、教師の学びも活性化され、“みんなでアクティブ・ラーニング”が実践されています。



# 子供たち一人一人の学力向上を目指して

～ 全国学力・学習状況調査結果から考える ～

## 義務教育課

### 1 全国学力・学習状況調査の分析

#### (1) 教科に関する調査

		小学校調査				中学校調査			
		国語		算数		国語		数学	
		A	B	A	B	A	B	A	B
平均正答数 ／設問数	本県	11.1 / 15	5.1 / 9	11.5 / 15	4.7 / 11	25.1 / 32	6.6 / 9	22.9 / 36	7.3 / 15
	全国	11.2 / 15	5.2 / 9	11.8 / 15	5.1 / 11	24.8 / 32	6.5 / 9	23.3 / 36	7.2 / 15
平均正答率	本県	74	56	77	43	79	74	64	49
	全国	74.8	57.5	78.6	45.9	77.4	72.2	64.6	48.1
全国平均との比較		★	★	★	★	☆	☆	★	☆

☆全国平均正答率を上回っている ★全国平均正答率を下回っている

Aは主として「知識」に関する問題 Bは主として「活用」に関する問題

4月に実施した「全国学力・学習状況調査」の結果が8月に公表されました。文部科学省は、メディアの中でコンマ1、2の争いが生じている現状に歯止めをかけたいという考えから、今年度は、都道府県や学校の平均正答率を整数で公表しました。

全体の概要としては、全国平均正答率を下回る教科があるものの、全体的に改善の傾向が見られ、特に中学校においては大幅な向上が見られます。また、同じ子供たちで比較すると、中学校3年の結果は、3年前（平成26年度）の小学校6年で国語A・B、算数A・Bともに全国平均正答率を下回っていた状況から改善し、中学校3年では国語A・Bと数学Bで全国平均正答率を上回っています。

児童生徒質問紙調査では、学習に関する項目の9割以上で、肯定的な回答をした児童生徒の割合が全国平均を上回りました。小学校の教科に関する調査では、全国平均正答率を下回り、課題は残るものの、「国語や算数が好き」「先生は分かるまで教えてくれる」「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」と回答している児童の割合が全国を上回り、学習への興味関心や前向きな姿勢がうかがえます。また、自己肯定感や規範意識が高く、夢や目標を持って生き生きと学校生活を送っている子供たちの実態が見られます。このことから、小学校で育まれた学習の素地が、伸びしろとして中学校以降の成長につながっているという考え方もできるのではないかと考えています。

今後の取組としては、各学校において、自校の成果や課題を全教職員で共有し、対象学年だけでなく、それぞれの学年で授業改善を図っていくことが大切です。

「各設問が各学年のどの内容に関わっているかを考える」「問題の正誤だけでなく、誤答の分析から児童生徒の実態をつかむ」「児童生徒の実態に応じた学習指導を、小学校は低・中・高学年ブロックで、中学校は教科で話し合っている」など、児童生徒の実態に応じた授業改善の取組を進めていきます。

## （2）質問紙調査

### 山梨の子供たち



児童生徒質問紙調査では、9割近くの項目で、肯定的な回答をした児童生徒の割合が全国平均を上回っています。児童生徒の自己肯定感や規範意識に関しては、経年的に高い状況が続いており、本県の子供たちが健やかに成長している様子がうかがえます。

また、学校質問紙調査では、8割近くの項目で、肯定的な回答をした学校の割合が全国平均を上回っています。言語活動の充実や長期休業日の学習サポートなど、組織として重点的に取組が進められている成果が見られます。

県教育委員会では、「山梨県学校教育指導重点」や「やまなしスタンダード」の視点から、主に「授業における見通しと振り返り」「家庭学習」「小中連携」の3点について分析し、質問紙調査リーフレットを作成しました。今後も、学習指導の工夫や家庭学習の充実を図るとともに、学力向上という目的に向けた小中連携を推進していきます。



## 2 学力向上フォーラム2017

県教育委員会では、9月8日に「学力向上フォーラム2017」を開催しました。甲南女子大学の村川雅弘教授から「学力向上とカリキュラム・マネジメント」をテーマに御講演いただくとともに、トークセッション「学力向上に向けた校内研究会の活性化～教師をアクティブ・ラーナーに」を行いました。

参加した先生方からは、「学びの基盤づくりが重要だと再認識した」「ワークショップ型研修の有効性が分かった」などの感想が寄せられ、今後の指導や校内研究等に生きる大変充実した研修会となりました。



# いきいき教育地域人材活用推進事業

義務教育課

## 1 事業の概要

学校教育においては、児童生徒の体験的な学習の充実を図り、児童生徒に「生きる力」を育んでいくことが求められています。そのため、幅広い経験や優れた知識・技術を持つ地域在住の専門家・社会人を学校に招き、授業の中で活用することが必要となってきました。

このような現状を踏まえ、本事業では、各学校の教科等の指導計画に則り、担当指導教師のもと、それぞれの専門的分野の講義や実技等を通して、児童生徒がいきいきと学べるよう、学校教育の活性化に資することを目的としています。

本事業は今年度で21年目を迎えます。新学習指導要領における「社会に開かれた教育課程の実現」に合致するものであり、更に「地域連携」という視点からも、意義のある事業であると言えます。

(申し込み手続き及び要項は平成29年4月3日教義第4606号でお知らせしています。)

## 2 平成29年度の活用について

今年度は、小学校152校、中学校41校、特別支援学校小・中学部11校、合計204校で活用しています。1校6回12時間を基本として各学校の教育課程の中、実施しています。1人の講師に依頼しているケース、複数の講師を基本の時間の中で依頼するケース等学校の実態に合わせて活用しています。例えば、音楽では伝統楽器の授業において、地域に住んでいる先生をお招きして箏、三味線等の指導をしていただいています。伝統楽器に馴染みの少ない児童生徒にとっては実際の演奏や本物の楽器に触れながらの学習は大変意義のあることです。また、地域の歴史、文化、産業、自然に関する授業での活用により、郷土についての認識を深め、郷土を大切にすることを育てることに繋がっています。

具体的な活用例

活用教科等	主な指導内容
音楽	合唱指導・伝統楽器の指導（箏・尺八・三味線・太鼓等） 地域の囃子指導等
総合的な学習の時間	地域の伝統工芸・福祉講話・桃、ブドウ栽培・稲作の体験活動等 地域の伝統料理、行事、歴史について
国語	読み聞かせ・書写・朗読・俳句・短歌指導等
保健体育	水泳・陸上競技・武道（相撲・柔道・剣道等）・ダンス指導等 スキー、スケート指導
図画工作	水彩画・陶芸・版画指導等
理科	天体について・植物について



合唱指導



地域の太鼓指導



水泳指導

# 国際バカロレア認定校に向けた取り組み

～ 未来を切り拓く力の育成を目指して～

県立甲府西高等学校

甲府西高は現在、山梨県内公立高校初の国際バカロレア認定校となることを目指して準備を進めており、今年度9月1日から正式に国際バカロレアの候補校となりました。そこで、国際バカロレアとはどのような教育理念を持つプログラムであるか、また本校はこれまでどのようなことに取り組んできたかということをご紹介したいと思います。

## 1 国際バカロレア（IB：International Baccalaureate）とその教育的使命

国際バカロレア（International Baccalaureate、以後IB）はスイスのジュネーブに本部を持つ国際バカロレア機構が提供する国際的な教育プログラムです。国際バカロレア機構は、1968年、インターナショナルスクールを卒業する生徒たちに国際的に認められる大学入学資格を与え、大学進学への道を確保することを目的として発足しました。そして国際バカロレア機構はその使命として、多様な文化の理解と尊重の精神を通じ、より良い、そしてより平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやりに富んだ若者を育成することを掲げ、共通カリキュラムと世界統一試験を実施し、統一試験に合格した者に国際バカロレア資格（IB Diploma）の授与を行っています。

## 2 国際バカロレアの4つの教育プログラム

国際バカロレアの教育プログラムには、3歳～12歳までを対象とする初等教育プログラム（PYP：Primary Years Programme）、11歳～16歳までを対象とする中等教育プログラム（MYP：Middle Years Programme）、16歳～19歳までを対象とするディプロマ・プログラム（DP：Diploma Programme）、同様に16歳～19歳までを対象としますが、よりキャリア教育・職業教育に関連したプログラムであるキャリア関連プログラム（CP：Career-related Programme）の4つのプログラムがあります。甲府西高はこの4つの教育プログラムのうち、所定のカリキュラムを2年間履修し、最終試験で所定の成績を収めると、大学進学資格（国際バカロレア資格）が取得可能なディプロマ・プログラムを提供するIB認定校となることを目指しています。

## 3 DPのカリキュラム

DPのカリキュラムは、以下の6つのグループ（教科）及び「コア」と呼ばれる3つの必修要件から構成されています。

6つのグループ		設置科目の例
グループ1	言語と文学	<u>文学</u> 、 <u>言語と文学</u>
グループ2	言語習得	語学B
グループ3	個人と社会	<u>地理</u> 、 <u>歴史</u> 、 <u>経済</u> 、心理学など
グループ4	科学	<u>物理</u> 、 <u>化学</u> 、 <u>生物</u> 、コンピュータ科学、環境システムなど
グループ5	数学	<u>数学SL</u> 、 <u>数学HL</u>
グループ6	芸術または選択科目	<u>美術</u> 、 <u>音楽</u> 、フィルムなど、または選択科目

DPの授業・試験は、原則として、英語、フランス語又はスペイン語で行う必要がありますが、現在、文部科学省と国際バカロレア機構で、DPの一部の科目を日本語でも実施可能とするプログラム、すなわち日本語DPの開発が進められています（前掲の表のうち、アンダーラインがついている科目は、日本語で実施することが可能な科目）。それぞれの科目には標準レベル(Standard Level)と上級レベル(Higher Level)があり、少なくとも3科目は上級レベル（その他は標準レベル）で学ぶ必要があります。また日本語DPでも、6科目中2科目（通常、グループ2の言語習得の科目に加えて更に1科目）は、英語等で履修することが必要となっています。またコアと呼ばれる3つの必修要件には、履修科目に関連した研究分野について個人で研究に取り組み、その成果を4000語（日本語の場合は8000字）の論文にまとめる課題論文(EE:Extended Essay)、「知識の本質」について考え、「知識に関する主張」を分析して知識の構築に関する問いを探究する知の理論(TOK:Theory of Knowledge)、創造的思考を伴う芸術などの活動や無報酬での自発的な交流活動に取り組むCAS(Creativity/Action/Service)があります。

#### 4 国際バカロレア教育の特徴と本校の取り組み

国際バカロレアの教育の特徴は、創造性・独創性を育むとともに、批判的分析や批判的思考を重視するという事です。IB生徒は自ら課題を設定し、探究活動を行って収集したデータや情報を基に自分で考えたり、オープンエンドな問いに対し活発なディスカッションを行って考えを深めたりといった学習経験を通じて、幅広い知識を応用できる思考力を身につけていくことができます。またプレゼンテーションや論文の作成などを経験することで、高い表現力が育まれていくことも期待されています。一方で、IBのHigher科目の一部は大学で扱うような高度な内容となっているうえ、取り組むべき課題が多いため、IB生徒には学習の習慣と時間を管理する能力がこれまで以上に求められます。

甲府西高ではこれまでにIBの学習者像を実現するために、あらゆる教育活動や組織の見直しを進めてきました。外部からIB有識者および山梨県教育委員会をお招きしたIB導入検討委員会を実施するとともに、校内のIB推進委員会、授業改善委員会などの指導のもとに、教科・分掌・年次がそれぞれの課題について話し合い、コースアウトラインなどの開発に取り組んでいます。また、IBが主催するワークショップへの参加、先進校視察、IB日本教育専門官などを招聘して開催した校内研修会などを通じ、職員全員が情報や課題を共有し、本校独自のIBDPの導入を図っています。



数学の授業における探究活動の様子



校内研修会の様子

Click!

参考 文部科学省「国際バカロレアについて」 [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/kokusai/ib/](http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/ib/)

## 地域を支える ものづくり教育

～ 燃費競技への取り組み ～

### 県立葦崎工業高等学校

本校では『ものづくりを通じて地域産業界に貢献できる技術者の育成』を基本に据えた教育を行い、卒業生の多くは本県の産業界を支える人材として多方面で活躍し、高い評価をいただいております。

通常の授業以外にも、国家技能検定等の資格取得や溶接競技、ロボットや電気工事コンテストへの参加をしており、生徒の能力が活かせる様に様々な活動を行っています。燃費競技への参加もその活動の一つです。

本校が参加する燃費競技は、50ccバイクのエンジンを利用して車を作り、サーキットを7周（約16km）して消費したガソリンの量で燃費を競います。360チーム・約1500人が参加する大きな大会で、海外からの遠征も毎年有ります。高校生のクラスには約140チームが参加し、本校は1225km/l・12位が最高記録です。十数年前は16kmを走りきる事が難しい状態でした

西暦年(大会回数)	記録	順位
2017年(第37回)	1045km/l	19位 /138 チーム中
2016年(第36回)	997km/l	16位 /136 チーム中
2015年(第35回)	1225km/l	12位 /141 チーム中
2014年(第34回)	984km/l	21位 /150 チーム中
2013年(第33回)	793km/l	周回オーバー(走りすぎ)
2012年(第32回)	897km/l	21位 /147 チーム中
2011年(第31回)	933km/l	26位 /157 チーム中
2010年(第30回)	526km/l	5周リタイヤ(パンク)
2009年(第29回)	1183km/l	20位 /168 チーム中
2008年(第28回)	1051km/l	17位 /169 チーム中
2007年(第27回)	757km/l	34位 /168 チーム中
2006年(第26回)	587km/l	44位 /172 チーム中
2005年(第25回)	382km/l	71位 /170 チーム中
2004年(第24回)	記録なし	5周リタイヤ(燃料トラブル)
2003年(第23回)	記録なし	1周リタイヤ(ハンドルトラブル)
2002年(第22回)	333km/l	タイムオーバー



初めて1000km/lを超えた車体

にするだけでも大変な作業で、ハンドルを右に切るとタイヤが左を向く車が出来上がって、生徒と一緒に笑った事も有りました。生徒からは突拍子もない提案も含めて、様々な考えが提示され、それらの考えを効率の良い方向に集約していく。その技術は先輩から後輩に受け継がれ、卒業生も毎年代わる代わる来校して、後輩に伝えきれなかったアドバイスや激励をしに来てくれます。公道を走る自動車の動力はモーターに変わりつつありますが、様々な技術的要素を含むガソリンエンジンは教材として適していると考えています。

この活動は各種新聞やテレビでも取り上げていただき、歴史有る「山人会賞」、大村智先生から直接いただいた「山梨科学アカデミー賞」を始め沢山の賞状も戴きました。これらの事を励みに、今後も燃費競技への取り組み、技術を磨いて行きたいと思っています。

最後に、大会前に走行用のテストコースを毎年使わせて戴いている県内企業や、協力して戴いている多くの先生方に、この場を借りて御礼申し上げます。

したが、徐々に記録を伸ばし現在はコンスタントに1000km/l前後が記録できるようになってきました。車を作りエンジンの加工をするには、様々な技術と工夫が必要になります。溶接、旋盤、フライス、ねじ切り、穴開け、曲げ加工・・・さらに加工した物をどの様に組み合わせていくか、考えては作り、組み立てては、また作り直しの連続で、生徒には加工技術だけでなく根気と考える力も養われます。最初の頃は人が乗って動くよう



現在の車体

Click!

# 運動部活動顧問任用事業



スポーツ健康課



## 運動部活動顧問任用事業とは

公立中学校において、運動部活動の円滑な運営に資するため、市町村（組合）が多様な地域人材を部活動指導員として配置できるように、人的支援体制の整備を図ることを目的とした事業です。



## 部活動指導員とは

中学校、高等学校等において、校長の監督を受け、部活動の技術指導や大会への引率等を単独で行うことができます。学校教育法施行規則に新たに「部活動指導員」として規定されました。（平成29年4月1日施行）

### 【職務】（部活動指導員が単独で行うことができる）

実技指導、学校外での活動（大会、練習試合等）の引率、年間及び月間の指導計画の作成、生徒指導に関する対応、事故が発生した場合の現場対応 等

### 【資格として考えられる要件】

- ・教員免許を所有していること。（教員免許更新の制度は適用しない）
- ・日本体育協会等認定の指導員資格を所有していること。
- ・実技指導に堪能で、20歳以上であること。
- ・学校長が指導者としてふさわしいと判断した者 等



## 平成29年度運動部活動顧問任用事業の活用状況

教育委員会	中学校（部活動）
北杜市	須玉中（ソフトテニス） 長坂中（卓球） 高根中（バレーボール） 小淵沢中（サッカー）
笛吹市	石和中（ソフトテニス） 御坂中（バレーボール） 一宮中（サッカー） 浅川中（バレーボール） 春日居中（剣道）
甲州市	塩山中（剣道）
身延町	身延中（柔道）
昭和町	押原中（ソフトテニス）

なお、平成30年度も部活動指導員を任用する市町村（組合）に対して補助する制度を計画しています。詳しくはホームページをご覧ください。

スポーツ健康課 学校体育担当ホームページ

<http://www.pref.yamanashi.jp/sports/gakutaitop.html>

Click!



## 博学連携の推進

～ 「貸出教材」・「職場体験」をとおして～

### 県立博物館

山梨県立博物館の目指す大きなテーマの一つに、「博学連携」があります。平成17年の開館以来、学校と博物館が手を取り合って子どもたちの教育に取り組んでいこうと、「博学連携」を進めてきました。現在県立博物館には、2名の教育主事（小学校教員）がおり、博学連携事業を担当しています。今回は、県立博物館の様々な取組の中から「貸出教材」と「職場体験」をとおして、「博学連携」の推進についてご紹介いたします。

#### ◎ 貸出教材「かいじあむミュージアムキット」



一番人気の「鎧・兜」

教室にいながらにして歴史が体験できるように工夫された、学校用の貸出教材です。社会科や総合的な学習の時間、特別活動等、学校での様々な授業や活動に生かしていただきたいです。

例えば、「戦国時代キット」においては次のような形で活用いただいています。【小学校】貴族の政治から武士の政治に移る学習の導入で使用。／実際に着たり、持ったりして、質感や重量を体感させた。【中学校】「東アジアの貿易と南蛮人」の「鉄砲の伝来」において、教材として使用。／歴史分野の授業において利用し、戦国時代についての生徒の理解を深めた。

【高等学校】外国の生徒との交流授業で活用（日本人の生徒が、外国の生徒に道具を英語で説明）。【特別支援学校】「戦国時代の暮らし」において、当時の様子を知らせる視覚資料の一つとして提示。／借用した鎧・兜、太刀、火縄銃を持ってみる活動。他にも、「江戸時代キット」、「旅姿キット」、「甲斐国関係の古代木簡レプリカセット」、「オリジナル歴史かみしばい」等があります。ぜひご活用ください。

#### ◎ 職場体験（インターンシップ）

県立博物館では、県内の中学校・高等学校の職場体験を受け入れています。山梨の歴史を後世に伝える博物館の仕事に接する中で、山梨についてより深く知っていただきたいです。また、体験をとおして望ましい職業観・勤労観及びコミュニケーション能力を養う機会としていただきたいと考えます。

職場体験の内容としては、主に次のようなものがあります。就業体験にあたっての心構えと共に、博物館の業務内容についての講義／学芸員によるバックヤード（収蔵庫）の説明／常設展・企画展の見学／総合受付・常設展改札等における接客等を体験していただいています。以下は、生徒の感想の一部です。

☆人生で一度見学できるかできないかのバックヤード見学。古い書物等の管理は、本当にきちんとしていて、湿度・温度・照明や保管する封筒の紙の種類等、書物一つを保管するのにすごい手間と気を遣っていることが分かりました。

☆将来何になるのかはまだ決まっていなくても、山梨県立博物館の方々のように一生懸命仕事をして、誰かを喜ばせられるような仕事に就きたいと思います。



企画展入口までお客様をご案内する中学生

◇博物館活用の詳細は、山梨県立博物館『博物館活用事例集』（ホームページ掲載：トップページ左の「教職員の方へ」をクリック）をご覧ください。

◇問い合わせ先：山梨県立博物館 TEL055-261-2631（ホームページもご覧ください。）

## 学校教育を支援する実践的な研究を目指して

総合教育センター 研究開発部

研究開発部は、研究の推進、教育資料の収集、校内研究の支援等を担当しています。

### ○センター研究の概要

今年度は、全体研究テーマとして「未来を担う子どもを育てる学校教育の総合的な支援－生きる力を育む実践的指導の在り方－」を掲げ、新学習指導要領を見据えた先進的な事項に関する【先進プロジェクト研究】と今日的な教育課題解決に向けた【教育実践研究】の2つに研究ブロックを分け、各々に課題グループを設け研究を推進しています。研究から得た成果については、研究大会やホームページで発表・提供をしています。

研究ブロック・グループ	校種・教科	研究主題	
A 先進プロジェクト研究	①主体的・対話的で深い学びに関する研究	高・国語	高等学校国語科における「主体的・対話的で深い学び」に関する研究
		中・音楽	音楽科における「主体的・対話的で深い学び」に関する研究
	②外国語教育の充実に関する研究	外国語	小学校外国語活動における異校種間連携
		小・外国語	充実した小学校外国語活動に関する研究
		中・外国語	課題を改善するための指導の在り方について
	③情報教育に関する研究	高・家庭	家庭科の実技指導における効果的なICT活用に関する研究
		高・工業	高等学校における初等プログラム制御教育
		高・数学	ICTを用いた家庭学習との有機的な関連を図った授業の在り方
		小・算体	ICTを有効活用した主体的でより深い学びの創造
	④探究の時間に関する研究	中・技術	中学校技術分野における「情報に関する技術」の充実に向けて
高・総合		探究のプロセスを意識した授業改善に関する研究	
B 教育実践研究	①確かな学力育成に関する研究	高・総合	「総合的な探究の時間」に関する研究
		小・国語	家庭学習と授業とを関連づける単元構想の在り方
		中・数学	中学校数学科における統計教育の充実を目指して
		中・理科	中学校理科における確かな学力の育成を目指す授業づくり
		中・理科	生徒実態から考える課題と学習改善プランの作成
	中・社会	「やまなしスタンダード」に基づく学習指導の在り方	
②教育相談に関する研究		いじめに対する教師の意識に関する研究	
③特別支援教育に関する研究		学校における「合理的配慮の提供」の充実に関する研究	

### ○一般留学生による研究

本年度は1名の一般留学生が学校現場より派遣されています。本センター指導主事の指導や学校現場の先生方で組織する研究協力員部会での研究協議を受け、以下の研究内容で取り組んでいます。

研究領域	研究テーマ
言語活動の充実（小・国語）	「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す国語科指導に関する研究

### ○センター研究大会

#### 「実践交流ラウンドテーブル2018－やまなし学びの未来－」

平成30年2月22日(木)午後開催。特別講演・ポスター発表・ラウンドテーブルを行います。ラウンドテーブルでは、異校種が混在した少人数グループ内で、互いの教育実践等をインプット、アウトプットすることで自己省察が行われるとともに、つながる場、学び合いの場となることを願っています。なお、特別講演では、東京大学大学院教授の市川伸一先生の特別講演も予定しています。



昨年度のラウンドテーブル

## 特色ある学校・魅力ある学校づくりに向けて

### → 南アルプス市立芦安小学校

芦安小学校は全校児童27名で、南アルプス市で最も小さな学校です。少人数で授業を行うことで、基礎基本の定着や学習内容の確実な習得など、児童一人ひとりに手厚く丁寧な指導や支援ができています。

また、平成23年度に県内初のユネスコスクールに認定され、ESD（持続可能な開発のための教育）として、地域のNPO法人「芦安ファンクラブ」と連携した南アルプス登山活動（3・4年生：夜叉神登山、5・6年生：栗沢山登山）や子供たちが自然を守る活動（清掃活動・学校林整備事業）などの自然体験活動にも継続して取り組んでいます。

平成25年度からは、文部科学省教育課程特例校の指定を受け、「小中連携英会話科研究推進校」としての取組も推進しています。小中連携カリキュラムの下、中学校卒業時の英語でのコミュニケーション能力を確かなものにするように、芦安小・中学校で連携して取り組んでいます。



栗沢山山頂に立つ5・6年生



英会話科の授業の様子（3・4年生）

## 我ら巨摩のはらから

### → 県立巨摩高等学校

本校は創立94年の長い歴史を有する高校です。伝統を引き継ぎながらも新時代を切り拓く生徒の育成のため、様々な取り組みを行っています。たとえば本年度からユネスコスクールとして認定され、

様々なボランティア活動が盛んになってきたことや、いわゆるゆるキャラである「こまねきねこ」も、新たな取り組みから生まれたものです。

本校の特徴の一つは、発問やディスカッションを通して課題を発見する「巨摩スタイル」を中心とした教育活動です（9月号参照）。この成果をもとに、9月に参加した「高校ユネスコ主張大会」では、最高賞の芸術文化祭賞を獲得しました。

もう一つの大きな柱は部活動です。運動部・文化部ともに生徒達が切磋琢磨しながら高いレベルで活動を盛り上げています。卒業生の中には在学時の経験を活かし、オリンピックで活躍する選手もいます。

本年度の実績をいくつか挙げると、運動部ではホッケー部がインターハイ出場、弓道部がインターハイ個人優勝、陸上部が全国高校選抜陸上大会8種競技で個人優勝などがあります。現在も、全国制覇を狙う選手達が次々と県代表として本校から参戦を続けています。文化部では写真部が全国総文祭に出品、吹奏楽部が山梨県大会で金賞を受賞し、西関東大会へと駒を進めました。

「文武両立」という言葉を実現することの難しさと正面から向かい合う生徒達が、今日も教室やグラウンドで新しい伝統を創り出しています。



巨摩高ゆるキャラ「こまねきねこ」



山梨県立美術館開館40周年記念  
コレクション企画展  
「山梨県立美術館物語 40年間のストーリー&歴史」

県立美術館

山梨県立美術館は昭和53（1978）年に開館し、平成30（2018）年は40周年にあたります。本展では当館の歩みを行事やイベントを記録した貴重な写真や資料をとおして振り返るとともに、アンケートによって選ばれた所蔵品「私の愛する作品たち」を、寄せられたコメントと合わせて展示します。他にも40年の間に開催されてきた特別展や教育普及事業も取り上げ、県立美術館のこれまでの様々な活動を紹介します。



ジャン＝フランソワ・ミレー《夕暮れに羊を連れ帰る羊飼ひ》が報道陣の前に初公開された時の様子  
昭和53（1978）年10月18日



開館初日、入館を待つ人々の列  
昭和53（1978）年11月3日



佐藤正明《The Big Apple No.45》の除幕式  
平成20（2008）年4月3日



石井精一《畳の記憶(A)》  
1975年制作、山梨県立美術館蔵

山梨県立美術館開館40周年記念 コレクション企画展  
「山梨県立美術館 40年間のストーリー&歴史」

日 時：平成30年1月2日(火)～3月4日(日)

場 所：山梨県立美術館 特別展示室

入場料等：一般510円 大学生210円 65歳以上、高校生以下は無料

※ミレー館、テーマ展示室、萩原英雄展示室への入場も含まれます。

問い合わせ先：県立美術館 TEL 055-228-3322

関連HP <http://www.art-museum.pref.yamanashi.jp/>

Click!

## 新収蔵品展 ブンガク玉手箱 太宰治・田中冬二・辻邦生・野尻抱影・山本周五郎ほか

県立文学館

### 1 太宰治の手紙5通を新たに収蔵

太宰治は青森県で生まれましたが、山梨とは深いつながりがある作家です。1938（昭和13）年9月に御坂峠の天下茶屋を訪れ、先輩作家の井伏鱒二の紹介で、都留高等女学校（現・都留高等学校）の教師だった石原美知子と結婚し新婚時代を甲府の御崎町で過ごしました。また湯村温泉で小説を執筆したり、戦中は水門町の美知子の実家に疎開しています。

このたび、文学館では太宰治が山梨から送った手紙5通（封書2、葉書3）を新たに収蔵しました。宛先はすべて高田英之助で、高田は東京日日新聞社の甲府支局に勤務し、甲府の女性と婚約していました。井伏に師事した高田は、井伏から太宰の結婚相手を探すよう依頼され、自分の婚約者の後輩の姉にあたる美知子を紹介したことが縁で太宰と親交を結びました。

1938（昭和13）年11月26日消印の太宰が下宿していた「甲府市西壱町九三 寿館」から送った手紙には、高田の結婚を祝福する言葉と、高田の婚約者が美知子を推薦してくれたことへのお礼とともに「僕は、年内こちらにゐます。毎日、二枚三枚、長編書きつづけてゐます。（略）結婚費用など、できるあてもないが、まあ、そのときは、そのときだ、と自信たつぷり。」と美知子との新生活への期待を綴っています。



太宰治（1909～1948）

### 2 約70点の資料を展示

このほか、明治時代に甲府中学校（現・県立甲府第一高等学校）の教壇に立ち、漢詩人としても知られた香川香南の書、同じく甲府中学校に英語教師として赴任、「冥王星」の名付け親で数々の星のエッセイを発表した野尻抱影の原稿、奈良田や富士北麓など県内各地を訪れ、人々の暮らしや自然を詩に詠んだ田中冬二の愛用品や堀口大學からの手紙など、約70点の資料を展示します。

皆様のご支援やご協力により、新たに仲間入りをした資料の数々を是非ご覧ください。観覧無料です。



太宰治 高田英之助宛（部分）1938（昭和13）年11月26日消印

### 新収蔵品展 ブンガク玉手箱

太宰治・田中冬二・辻邦生・野尻抱影・山本周五郎ほか

日 時：平成30年1月20日（土）～3月21日（水・祝）

場 所：山梨県立文学館 甲府市貢川1-5-35

観 覧 料：無料

問い合わせ先：TEL 055-235-8080

関連HP <http://www.bungakukan.pref.yamanashi.jp/>

Click!

## シンボル展「よみがえる！甲府道祖神祭り」

県立博物館

江戸時代、「当国一大盛事」（甲斐で最も盛大な行事）とうたわれた祭りがありました。それが「甲府道祖神祭り」です。城下の町人たちは、歌川広重など有名絵師を招き、10メートルもの幔幕に絵を描かせ張り巡らせたのです。さらに幟を立て、子どもたちは芝居の名場面を演じ、若者たちは芸者風の舞や唄で盛り上げました。しかし、祭りは明治初期に廃絶に追い込まれ、用具のほとんどは転用・転売され、空襲の戦禍に消えたと考えられます。

最近、甲府道祖神祭りに関する重要な発見がありました。甲府の商家に、幕末期に柳町二丁目で使用した木彫類が残されていたのです。見事な彫りの龍やユーモラスな四猿、威厳ある四神の飾りは、祭りの隆盛を感じさせるに十分な迫力をそなえていました。

本展では、これらの新発見資料を初公開します。県博所蔵の幕絵2枚も合わせて展示します。幕絵とこれらの木彫類を同時に見られる機会は、実に146年ぶり！幻の祭りの華やぎを、どうぞ存分にお楽しみください。

### 【関連イベント】※参加無料

#### ◆かいじあむ古文書講座「道祖神に関する古文書を読む」

2月24日（土）13：30～15：00 生涯学習室にて

#### ◆かいじあむ子ども工房「小正月のいろいろな団子をつくろう」

1月13日（土）13：30～15：00 体験学習室にて

#### ◆学芸員によるギャラリートーク

1月6日（土）、14日（日）、2月24日（土）、25日（日）

15：00～（1時間程度） 展示室にて

※常設展観覧料が必要



柳町二丁目道祖神祭礼用具より 龍木彫  
(県立博物館蔵)



歌川広重筆 甲府道祖神祭幕絵「東都名所目黒不動之瀧」（県立博物館蔵）

### シンボル展「よみがえる！甲府道祖神祭り」

会 期：平成30年1月2日（火）～2月26日（月）

※火曜日休館 ※1月9日（火）～12日（金）は臨時休館

観 覧 料：常設展観覧料でご覧いただけます（一般510円、大学生210円）。

小・中・高・特別支援学校等の児童・生徒は無料

問い合わせ先：県立博物館 TEL 055-261-2631

関連HP <http://www.museum.pref.yamanashi.jp/>

Click!

## 冬季企画展「甲斐市の出土品Ⅱ」・ 第15回「わたしたちの研究室」研究成果展示会 開催のお知らせ

県立考古博物館

### ◆ 冬季企画展「甲斐市の出土品Ⅱ」が始まります



中稜塚古墳 古墳時代終末期 甲斐市

県立考古博物館では、12月9日(土)～平成30年1月28日(日)の期間に冬季企画展「甲斐市の出土品Ⅱ」を開催します。

自治体に専門の施設を持たない甲斐市の出土品を多くの方に知っていただくため、幅広く紹介していくシリーズ企画の第2弾。昨年の1部では旧敷島町の遺跡や出土品を取り上げましたが、今回は旧竜王町・双葉町の出土品にスポットを当てます。

この地域では1970年代以降、中央道建設にともなう発掘調査が次々と実施され、数多くの考古資料が発見されています。1994年には赤坂台古墳群で一番高い位置にある中稜塚古墳(なかまきづかこふん)において、古墳時代終末期(7世紀前半)の直刀や金環など、良質な遺物が出土しています。本展ではこれらの出土品を紹介しながら、甲府盆地北西部地域の歴史について考えます。

### ◆ 冬季企画展「甲斐市の出土品Ⅱ」◆

会 期：12月9日(土)～平成30年1月28日(日)

観 覧 料：無料

問い合わせ先：県立考古博物館 TEL 055-266-3881

関連 HP <http://www.pref.yamanashi.jp/kouko-hak/>

Click!

### ◆ 第15回「わたしたちの研究室」研究成果展示会

考古博物館主催・第15回「わたしたちの研究室」の研究成果展示会を開催します。

「わたしたちの研究室」は、小中学生を対象に、歴史・考古学に関する研究成果を募集するコンクールで、今年で15回目となります。毎年さまざまな視点から研究した成果が寄せられ、レポートや模造紙での作品だけでなく、映像作品や造形物など子どもたちの個性の光る力作が集まります。

今年も応募いただいた作品は入賞の有無にかかわらず、すべてを考古博物館において展示します。未来の研究者たちによる、みずみずしく斬新な作品の数々をぜひこの機会にご覧ください。



自作の衣装で作品を発表する様子  
(第14回最優秀賞・古屋さん)

### ◆ 第15回「わたしたちの研究室」研究成果展示会 ◆

会 期：平成30年2月10日(土)～3月4日(日)

観 覧 料：無料

問い合わせ先：県立考古博物館 TEL 055-266-3881

関連 HP <http://www.pref.yamanashi.jp/kouko-hak/>

Click!

## 山梨近代人物館

学術文化財課

### 旧制甲府中学校が輩出した人物たち — 早川徳次<sup>のりつぐ</sup>、石橋湛山<sup>たんざん</sup>、内藤多仲<sup>たちゅう</sup> —

山梨近代人物館で開催中の第6回展示「日本の発展に貢献した山梨の人々」では、日本近代史のなかで、わが国の社会や産業の発展に寄与した人々9名を紹介しております。今回は、同時期に旧制甲府中学校（現在の県立甲府第一高等学校）を卒業し、それぞれの分野の第一人者として活躍した3名の人物を紹介いたします。

早川徳次	1881-1942	笛吹市出身	明治28年(1895)入学	明治33年(1900)卒業
石橋湛山	1884-1973	東京都出身	明治28年(1895)入学	明治35年(1902)卒業
内藤多仲	1886-1970	南アルプス市出身	明治32年(1899)入学	明治37年(1904)卒業

※このほか近代人物館で扱う人物の中では、小宮山清三(1894入学-1899卒業)、飯田蛇笏(1898入学-1902卒業)、中村星湖(1898入学-1902卒業)が同時期に在籍していました。クラーク博士の弟子として著名な大島正健校長の赴任は1901年なので、早川は大島の薫陶を受けていません。

早川徳次は、日本で最初の地下鉄を実現させた実業家で、「地下鉄の父」とも称されている人物です。石橋湛山は「小日本主義」を唱えたジャーナリストとして戦前から活躍し、戦後には第55代内閣総理大臣(2代自由民主党総裁)に就任しました。内藤多仲は「耐震構造の父」とも称された建築家で、東京タワーをはじめとした電波塔を数多く手がけたことから「塔博士」とも称されています。彼らはまったく別分野で活躍した人物でありながら、旧制甲府中学校の同窓であることに加えて、早川・石橋が早稲田大学に進学し、内藤が早大教授になったことから、深いつきあいの友人であり、また仕事上の協力関係を持っていたことが判っています。



聖智寮完成記念写真(個人蔵)  
左から建築家高島司郎・内藤・早川

内藤は早川が設立した東京地下鉄道株式会社の嘱託として名を連ね、上野駅など地下建築の構造設計を担当したほか、同社の研修施設「聖智寮<sup>せいちりょう</sup>」の設計にもあたっております。また、内藤は早川が郷里に建設しようとしていた「青年道場」の建設にも協力しており、公私にわたっての協力関係が結ばれていました。早川が昭和17年(1942)に急逝した折には、石橋は社長を務めていた「東洋経済新報」の誌上にて、次のような早川への弔辞を寄稿しています。

早川徳次が卒然逝いた。十一月三十日此の報を受けた私は、事の意外に暫く言が出なかった。(中略)

勿論早川徳次無くも、誰れかがやがて地下鉄を敷いたであろう。併しそれはコロンブス出でずとも誰れかやがて米大陸を発見したであろうと云うのに等しい。米大陸の存する限り、コロンブスの名は亡びざると等しく、早川徳次の名は、我が国に地下鉄の走る限り残るであろう。晩年彼が地下鉄の経営から去った如きは、ここに問題でない。斯くて私は、少時からの彼の友人として、其の死を必ずしも悼まない。彼は人間一代として十分為すだけの事を為し遂げた幸福の男であったと思うからである。蓋し彼も亦斯く感じ、安らかに永遠の眠に就いたであろう。」

石橋湛山「早川徳次を弔う」(『東洋経済新報』昭和17年12月19日号)部分



『東洋経済新報』2052号

さまざまな資料やエピソードから、彼らは山梨県民特有の強い郷党意識とともに、旧制甲府中学校の学閥であることが強い絆となって、連携しつつ支え合いながら多くの業績を成し遂げていったことが感じ取れます。山梨近代人物館では、彼らに関する資料や情報を展示しておりますので、彼らの業績とともに、ぜひ彼らの横のつながりにも着目してみてください。

## 山梨の文化財

学術文化財課

## 県指定有形文化財

## 木造聖観音及び諸尊像（中央市大福寺）

平成29年9月7日指定

木造聖観音及び諸尊像は、聖観音立像2体、毘沙門天立像、不動明王立像2体から構成されます。

聖観音立像のうち1体は3.5mを超える巨像ですが、脚部を切り詰められており、像容と大きさの近い菩薩立像と比較すると、造立当初は5mを超える像高であったと推定されます。現存する平安時代の立像中でも5m以上の像はごく少なく、特に地方においては、当時においてもまれな巨像であったと考えられます。現在は、両腕も後代に補われた腕と変わり本来の姿は損なわれているものの、巨大な体軀と迫力のある相貌は、なお往時の威容を伝えています。制作は体軀や衣の表現から10世紀頃と考えられます。もう1体の聖観音立像は、ふっくらとした顔立ちや浅く繊細な衣文を刻む衣の表現に、平安末期の特徴がよく表れています。左手で蓮華を持ち、右手をこれに添える形で、比叡山延暦寺の横川中堂本尊聖観音立像と同じ形であり、12世紀末頃盛行した同像の模刻と考えられます。本像は、模刻の中でも横川中堂像（像高170.6cm）と像高がほぼ等しく、同像の特徴である動勢表現もよく受け継いでいます。

毘沙門天立像は、細身の引き締まった体軀で穏やかな動きを表し、花形を二重に重ねた冠や肩布の大振りな結び目など、細部の意匠が装飾的な像です。不動明王立像のうち1体は、直立した動きの少ない姿で、衣の表現などもやや固く、相貌の優しい童顔風の表現は、当寺薬師堂の丈六薬師如来坐像（県指定文化財）に通じています。もう1体の不動明王立像は、耳の形や衣文の表現など聖観音立像と近く、脇侍として造立されたと考えられます。もう一方の脇侍である毘沙門天立像は現存しませんが、対になる毘沙門天立像が存在していた可能性は高く、横川中堂像の模刻中、脇侍まで伴う例は少なく、本像は、その中でも忠実なものであったといえます。

この5体の仏像は、各時期の様式の特徴をよく表しており、また、聖観音立像（像高3.5m）と当寺薬師如来坐像の二体の丈六仏を中心に、長期に渡って行われた造仏は、平安時代中期から末期にかけての甲斐の仏教信仰の隆盛を示す重要な作例です。



像高3.5mを超える聖観音立像

## 第67回全国高等学校スピードスケート競技・ フィギュアスケート競技選手権大会（冬季インターハイ）

国体推進室



全国からの若き精鋭が山梨に集い、スピード・フィギュアの2競技で熱戦を繰り広げます。  
是非、観戦に来ていただき選手の応援をしてください！

【会期】 平成30年1月22日(月)～26日(金)

【会場地市・実施競技・競技会場】

甲府市：フィギュア・小瀬スポーツ公園アイスアリーナ

富士吉田市：スピード・富士急ハイランドセイコオーバル

【開始式】

スピード競技：富士河口湖町・勝山ふれあいセンター

フィギュア競技：小瀬スポーツ公園・武道館

・ポスター図案：渡邊慧大（山梨県立吉田高等学校）

・スローガン：加藤来唯（山梨県立富士河口湖高等学校）

・メダル図案：久保田あまね（帝京第三高等学校）

詳細は、第67回全国高等学校スピードスケート競技・フィギュアスケート競技選手権大会事務局のホームページをご覧ください。

<https://67skate.jp/>

Click!

## 第73回国民体育大会冬季大会スケート競技会



甲府市と富士吉田市において開催される「富士の国やまなし国体」が来年1月に開催されます。各都道府県の代表選手が集結するスポーツの祭典に是非観戦にお越し下さい。

会場地	式典・競技	日 程					会 場	
		平成30年1月				2月		
		28 (日)	29 (月)	30 (火)	31 (水)	1 (木)		
富士吉田市	開始式	午前 ◎					富士吉田市民会館 富士五湖文化センター (ふじさんホール)	
	表彰式					午後 ◎		
甲府市	スケート	スピード		○	○	○	○	富士急ハイランド セイコオーバル
		フィギュア	○	○	○	○		小瀬スポーツ公園 アイスアリーナ
		ショート トラック				○	○	

富士の国やまなし国体についての詳細は、山梨県教育庁国体推進室のホームページをご覧ください。

<http://www.pref.yamanashi.jp/kokutai/index.html>

Click!

## 「かいじあむのお正月」のお知らせ

県立博物館

毎年恒例の「かいじあむのお正月」を、平成30年1月2日・3日の2日間に渡って開催いたします。お正月ならではの体験や工作を、ぜひお楽しみください。年の初めは博物館で招福！

■開催日時 **平成30年1月2日（火）・3日（水）**

午前10時～午後3時

■会場 山梨県立博物館 館内各所

■開催イベント

凧作り・百人一首のかるた大会（協力：元甲州かるた凧保存会）

おもちつき（※3日のみ開催予定）

書初め、おみくじ・福引、道祖神祭りのプラバン作り・羽子板作り

その他

※イベントの日程・内容は変更する場合があります。博物館HPやチラシにてご確認ください。

■開催中の展示

- シンボル展「よみがえる！甲府道祖神祭り」（1月2日～2月26日）  
新発見の甲府道祖神祭り関連資料を展示。幻の祭りの華やぎが、よみがえります。
- 常設展「年の初めはかいじあむ」（12月20日～2月19日）  
「めでたい」「ありがたい」資料を取り揃えて展示します。



かるたの様子



もちつきの様子

### 【問い合わせ先】

県立博物館 〒406-0801 山梨県笛吹市御坂町成田1501-1

TEL: 055-261-2631 (代表) FAX: 055-261-2632

関連HP <http://www.museum.pref.yamanashi.jp>

Click!

**早川町立早川南小学校** <http://www.hayakawa-minamisho.ed.jp/> Click!

創立50周年を迎えた本校では、学校生活の様子をFacebookに毎日アップし、リアルタイムで伝えています。ホームページでは、山村留学制度や創立50周年記念事業などを紹介しています。南小の特色ある教育活動をこれからも情報発信していきたいと思ひます。



**都留市立都留第二中学校** <http://school-jh-tsuru.jp/publics/index/25/> Click!

本校では生徒の自己肯定感の向上を目標に、教育活動に日々取り組んでいます。HPで生徒の頑張りや活動を発信すると、保護者や地域の皆様から温かい励ましの声が届けられます。そして、その声は生徒たちの自信につながっていますので、これからも更なる意欲の向上を願って更新していきたいと思ひます。

**学びの集会**

2017-09-28



生徒会主催の「学びの集会」が行われました。5校時は全体で、家庭学習についての意義や進め方について学習しました。6校時は縦割り班ごとに分かれ、各自が家庭学習に使っているノートを持ち寄り、よりよい家庭学習について意見交換をしました。

**年間を通じての挨拶運動**

中央は都留二中のゆるキャラ「妖精つるにん」

詳細は学校だよりNO2参照

